

2014年

《綿の種の育て方》

☆ 日当たりと水はけの良い場所が適します。気温・水・日照時間がポイントです。

1. 土の準備

綿は弱アルカリ性の用土を好みます。種まきの1週間前に苦土石灰を混ぜて耕し、土を中和しておきます。元肥は、鶏糞(窒素系肥料)が良いです。

畑地であれば不要です。肥料をやりすぎると枝が伸びすぎたり、病害虫が発生しやすくなります。鉢植えの場合は、用土は水はけの良い有機質を土が良いです。

2. 種まき

① 地蒔きの場合

5月の下旬から中旬が目安です。寒冷地では、気温が低い日が続く場合は中旬から播いたほうが望ましいでしょう。

種は一晩水に浸してから蒔いてください。

土は種が隠れる程度にかけます。(大体2cmの穴に埋める)

畑の場合は30~60cmの間隔で2、3粒蒔き、発芽後間引きで、元気の良いものを1本残します。発芽日数は、適温で通常10日です。発芽後間引きして、元気のいいものを残すようにします。

② 鉢植えの場合

3粒ほど蒔いて発芽してから間引きして1本にします。

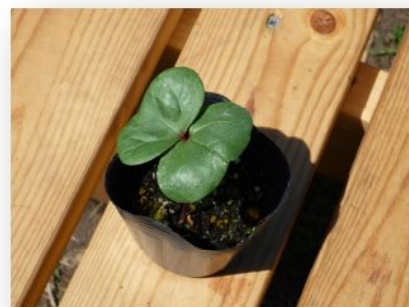
③ ビニールポットの場合

蒔き方は地蒔きと同じです。ナメクジがビニールポットに入らないように空のかごを下に敷くなど、地面から離して育てます。

畑に植えかえる場合は、発芽後10日以内に移植します。

土ごと根を傷つけないように丁寧に移します。

入梅直前に植えないでください。遅く蒔くと花は咲いても綿の実がみられないことがあるので注意が必要です。



3. 水やり

発芽後10cmくらいの丈になってから約1カ月の間は、ほとんど成長しません。

この期間は根が張る時期なので、水をやりすぎたり長梅雨にあうと、根ぐされを起こすので注意してください。

4. 摘芯

綿の種の種類により摘芯のタイミングが異なります。

和綿は背丈が30~50cm程度、米綿は100~130cm程度になったら摘芯(枝を切り高さを調整する)を行うと、横に枝が沢山伸び、綿が多く取れます。

鉢植えの場合、枝を4~5本残して、一度だけ摘芯すれば良いでしょう。

5. 支柱を立てる

背丈が高くなると台風や大雨で根元から倒れてしまうことがあります。

畑で育てる場合は特にその影響を受け易いので、背丈が 50 cm 程度になった支柱を立てることをおすすめします。

6. 綿の摘み取り

開花後 50~60 日ほどで青い実が大きくなり、やがて弾けます。(開絮(かいじょ)といいます)弾けた綿は、水に濡れると、ふわふわした白い綿が固く締まってしまう、カビが生えて黒ずみ汚れてしまうことがあります。開いたものは早めに収穫します。

詳細については

「はじめての綿づくり」日本綿業振興会：監修 大野泰雄・広田益久編 木魂社
をご覧ください。



 **MIRAI**

※写真は MIRAI で育てている綿です。